

小山市事務事業評価シート

平成30年度版

No.	4
-----	---

1. 基本情報							
＜1＞事業・業務名		ハンドベルフェスタ in OYAMA			＜2＞事業・業務の別		事業
＜3＞選定基準		③ 平成29～30年度総合計画実施計画の計上事業			＜4＞継続評価・新規評価の別		継続評価
＜5＞ 総合計画 基本計画 での体系	大項目	4 一人ひとりの個性発揮 心と体を育てるひとづくり			＜6＞担当部(局)		総合政策部
	中項目	4-4 多彩で個性ある市民文化と生涯スポーツ社会			＜7＞担当所属		文化振興課
	小項目	4-4-1 市民文化			＜8＞担当係等		文化振興係
	施策	小山らしさのあふれた文化の創造推進					
＜9＞根拠法令・計画等				＜10＞関連・類似事業		ハンドベルによりまちづくり事業	
＜11＞会計		一般	会計	＜12＞予算科目		10 款 4 項 4 目	
＜13＞実施期間		H16 年度	～	年度	＜14＞全体事業費		650 千円
＜15＞実施手法		補助金・負担金・貸付金等		「その他」の場合 ()			

2. Do - 実施 -									
＜16＞事業・業務の概要		市内のハンドベルチーム代表者による実行委員会を組織し、ハンドベルフェスタ in OYAMAを開催する。							
目的	＜17＞事業・業務の目的	市のブランドであるハンドベルの素晴らしい音色の響くまちづくりを推進し、ハンドベル音楽の普及並びに地域における文化活動の活性化を図る。							
	＜18＞事業・業務の対象	・ハンドベルチーム(出演者) ・市内外の音楽鑑賞に興味のある方(来場者)							
手段	＜19＞平成29年度の活動内容	市内のハンドベルチームの代表者による実行委員会を組織し、会議を3回開催。ポスター・チラシ等を作成し、10月15日(日)文化センター大ホールにて第14回ハンドベルフェスタ in OYAMAを開催した。							
	＜20＞活動指標 (アウトプット)	指標名	単位	平成28年度		平成29年度			
				計画	実績	計画	実績	達成率(%)	
		会議の回数	回	4	4	3	3	100.0%	
	ポスター掲示箇所	箇所	214	214	250	230	92.0%		
成果	＜21＞事業・業務の成果	・ハンドベルチーム：日頃の活動の成果を発表することができた。 ・来場者：市のブランドであるハンドベルに親しむことができた。							
	＜22＞成果指標 (アウトカム)	指標名	単位	平成28年度		平成29年度			
				計画	実績	計画	実績	達成率(%)	
		出演チーム数	団体	21	21	20	20	100.0%	
	来場者数	人	1,000	1,000	1,000	1,000	100.0%		
コスト ～資源の投入量	＜23＞投入指標 (インプット)	区分	単位	平成28年度		平成29年度			
				計画	実績	計画	実績	投入率(%)	
		コスト	千円	2,895	2,745	2,479	2,449	98.8%	
		事業費等	千円	730	580	680	650	95.6%	
		財源内訳	国・県補助金	千円					
			地方債	千円					
			その他	千円					
一般財源	千円	730	580	680	650	95.6%			
人件費	千円	2,165	2,165	1,799	1,799	100.0%			
	正職員	千円 × 人役	7,214 × 0.3	7,214 × 0.3	7,195 × 0.25	7,195 × 0.25			
	他の職員		×	×	×	×			

3. Check - 評価 -								
実績評価	妥当性	<24> 目的・対象の妥当性	1.妥当である	理由	理由	おやまブランドでもあるハンドベルを活用し、市内で活動しているハンドベルチーム等が出演する演奏会を開催することにより、小山らしさあふれる文化の創造推進に寄与するものである。 会議は実施前2回、実施後1回(反省会)とし、コストダウンを図り実行委員の負担を軽減した。 また、同日開催の他イベント(開運まつり等)と協力してPR活動を行い、掲示箇所を増やす等、実施手法の改善を行った。		
		<25> 手段や実施手法の妥当性	1.妥当である					
	有効性	<26> 成果の向上余地	1.向上の余地なし					
	効率性	<27> 事業費や人件費の削減余地	1.削減の余地なし					
	公平性	<28> 受益者負担の適正化余地	1.適正					
	<29>総合評価		1.改善の余地なし	理由		現状以上の費用の削減は、委員や出演者などの市民協力者の負担が大きくなってしまふ。今後もハンドベル音楽普及のため、継続した事業の開催が必要であるため、改善の余地はなしとした。		
4. Action - 改善 -								
事業の改善	<30> 事業の課題 事業の改善点 今後の進め方等		コストを増加させずに活動量を維持するため、引き続き会議を3回で実施する。					
事業の方向性	<31> 1次評価	所属長	3.現状維持	理由	市内には、小中学生や学生、社会人や60代以上等、幅広い年代にハンドベルが親しまれている。今後も小山らしさのあふれる文化の創造推進のため、継続して事業を実施するとともに、事業の周知徹底に努めること。			
	<32> 2次評価	所管部長	3.現状維持	理由	多彩で優れた文化の振興を図るため、ハンドベルによるまちづくりの推進は重要な事業である。その中でも、ハンドベルフェスタ in OYAMAの開催は中核を成す事業であり、引き続きコスト意識を持ち事業を実施すること。			
5 Plan - 計画 -								
事業の計画	<33>実施計画		<35>コスト	区分	単位	平成30年度	平成31年度	
	<34>活動・成果目標					計画	計画	
						コスト	千円	2,449
		事業費等	千円	650	650			
		人件費	千円	1,799	1,799			